

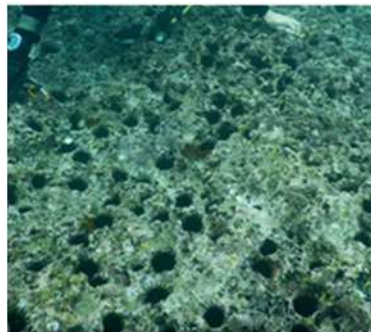


## 1 相模湾の磯焼け

藻場は水産生物の保護育成場であるとともに、気候変動の原因となる二酸化炭素を吸収しています（ブルーカーボン）。しかし相模湾では、2010年代に磯焼けが急速に進行し多くの藻場が消失しました。調査の結果、海藻を食べるウニやアイゴの増えすぎや、大型台風による海藻の流失等が原因と考えられます。その背景には気候変動による水温上昇があります。



カジメの藻場



ムラサキウニの大発生



アイゴの食害

## 2 早熟性カジメによる藻場とブルーカーボンの再生

### ①カジメの苗を作る研究

水産技術センターは、相模湾に自生する早熟性カジメから苗を大量生産する研究に取り組みました。早熟性カジメは普通のカジメよりも再生のサイクルが早いため、ウニやアイゴに食べられる前に遊走子（タネ）を放出し、藻場再生に効果のあることが期待できます。



フリー配偶体



カジメの発芽  
(顕微鏡写真)



早熟性カジメの苗の大量生産に成功

### ②カジメを海で大きく育てる研究

県が生産した早熟性カジメの苗を、漁業者やダイバーと協力して育成し、藻場の再生とブルーカーボンの創出に取り組んでいます。



カジメを育てる漁業者



カジメの育成の様子

成熟のしるし (子のう斑)



成熟したカジメからタネが広がり藻場の再生が期待できます